## No.2 雲海に浮かぶ吉備高原

是里は赤磐市の北端に位置し、吉備高原の中にある。人口約200人の是里の集落は、標高250m~310mの高原面に点在し、その北西方には標高516mの高り峰が聳える(図1、写真①・②)。是里の東方には、岡山三大河川の一つである吉井川が南へ流下し、その支流の吉野川および滝山川と合流する。河川の合流部には扇状地や自然堤防が発達し、吉井川の右岸に形成された沖積低地(標高50m前後)に周匝と呼ばれる小さな町が広がる。この地は毎年晩秋から初春にかけて、晴天の日はほぼ毎回、吉井川を水源とする川霧が発生する。周匝とその周辺の低地は霧の中にあるが、是里の集落は霧の上に位置する。そのため、是里からは時に絶景といえるほどの雲海を望むことができる。

是里の集落の東端には、有志による手づくりの「是里展望台」が整備されている。また、集落の中央には、かつての小学校を宿泊施設に再利用した「これさとリゾートハウス(RH)」がある。是里展望台は東から南東方に向いた斜面にあり、標高は約255m程度であるが、前方に視界を遮るほどの高まりがないため、吉井川やはるか遠方の妙見山(標高519m)が望める。一方、これさとRHは高原の中の小さな高まり(標高約310m)に位置するため、建物の高さを超えれば、ほぼ360°の周囲を観察することができる。

2020年11月17日, 筆者らはドローンを用いた吉備高原の地形写真を撮影するために是里展望台にいた。早朝から発生した霧は、周匝から是里へかけて徐々に広がり、是里展望台もその霧の中にあった。この日の霧は250mを超える厚さを持ち、吉備高原のほとんどを覆い尽くし、わずかに妙見山、高ノ峰、竜天山などの山頂付近が視認できる程度で、まさに雲海に浮かぶ島々の様相を呈していた。筆者らはこの偶然に感謝し、目的を変更して雲海に浮かぶ吉備高原の山々を撮影した。

午前8時30分,是里展望台から上空へドローンを飛ばして、分厚い雲海からわずかに頭を出している妙見山を撮影した(写真③). 午前9時過ぎから場所をこれさとRHへ移して、竜天山方面(写真⑤) および高ノ峰方面(写真⑥)を撮影した. さらに、少し霧の勢いが弱まった午前10時30分頃に再び是里展望台へ移動して妙見山方面(写真④)を撮影した. 是里展望台と妙見山の間にある吉井川と滝山川沿いの谷筋が見え始めてからからわずか10分後、雲海は急激に薄くなり、突然視界が開け、霧は文字通り霧散した.

作成: 竹下浩征(蒜山地質年代学研究所) 協力: 宿輪降太(五島鉱業株式会社)

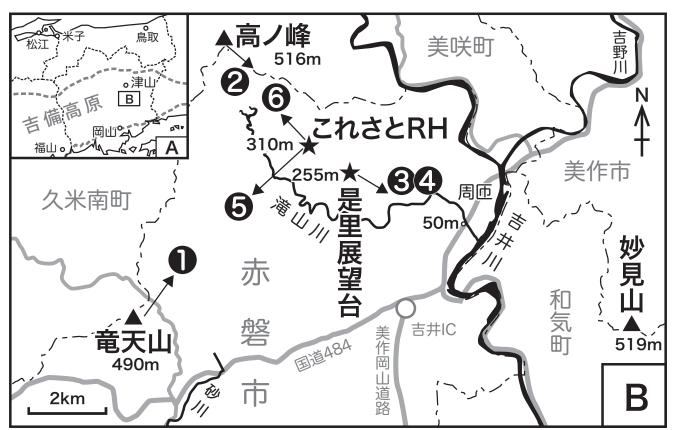
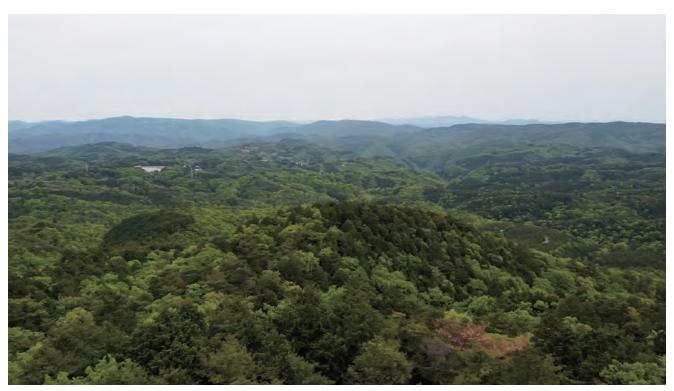


図1 是里と周辺の山々の位置および写真撮影方向。★:撮影地点。是里展望台の標高は約255m。これさとリゾートハウス(RH)の標高は約310m。霧の発生する吉井川の標高は約50m。 ①:竜天山上空から是里の集落を望む。その後背には標高516mの高ノ峰が聳える。②:高ノ峰の山腹から是里方面を望む。遠方に妙見山(519m)の稜線が見える。③:是里展望台上空から雲海に浮かぶ妙見山(519m)方面を望む。④:是里展望台上空から霧が晴れかかる吉井川〜妙見山方面を望む。⑤:これさとRH上空から竜天山(490m)方面を望む。⑥:これさとRH上空から高ノ峰方面(516m)を望む。



写真① 竜天山(標高490m)の上空から北東方の是里地区を望む、写真右が東(吉井川)方面で、写真左手前は竜天オートキャンプ場、写真中程には滝山川によって開析された谷が発達する。標高310m~250mに点在する是里の集落の後背(写真左奥)には、山頂標高516mの高ノ峰が聳える。



写真② 高ノ峰の山腹(標高約490m)上空から南西方向の是里を望む。わずかな起伏はあるものの、平坦な高原面が広がり、その中に 集落が点在する。その集落の南側(写真中央右寄り)には滝山川が開析した狭い谷が見られる。遠方には妙見山(519m)の山稜も認め られる。



写真③ 是里展望台上空から雲海に浮かぶ妙見山(519m)方面を望む、厚さ約250mの霧に覆われ、ドローンを操作するパイロットもこの霧の中にいる。



写真④ 是里展望台上空から霧が晴れかかる妙見山方面を望む。雲海に隠れていた滝山川沿いの低地と、吉井川との合流部に広がる扇状地が現れてきた。



写真⑤ これさとRH上空から竜天山(490m)方面を望む、写真左手前と中央〜右側には是里の集落が点在する、霧は谷筋を伝って高原へ侵入する。



写真⑥ これさとRH上空から高ノ峰方面(516m)を望む、霧は標高300m付近まで広がり、是里の集落を覆い尽くす勢いであった。中央に見える高ノ峰の左の高まりは金刀比羅山(479.4m)。